

平成19年度 三田福祉ホームの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	社会福祉法人 とまかわさき（川崎市川崎区渡田1丁目15番地5）
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・居室その他の設備を利用させると共に、日常生活に必要な便宜を提供する業務 ・管理施設等の維持管理に関する業務 ・その他必要と認める業務

2 管理運営(事業執行)に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
① 施設及び設備の維持・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・非常・火災通報装置の保守点検及び害虫駆除については、業務委託により対応した。 ・消防用設備の保守・点検等を、基本法令に基づき実施した。 ・非常口・非常灯の点検を随時行った。 ・施設の小規模修繕を随時行った。 	<p>専門業務については外部に委託するなど、効果的な施設・設備の管理を行っていることは評価できる。</p> <p>今後も安全性に充分配慮した管理を行うこと。</p>
② 利用者の処遇及び機関連携	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者全員と面接を行い、個別支援計画を作成した。 ・成年後見制度を10人中8人が利用し、財産管理・身上監護等を依頼している。現在、1人が申立手続き中である。 ・ケア会議を開催すると共に、後見人・障害者生活支援センター・保健福祉センター等関係機関との連絡調整を密にし、情報交換や各機関の役割の確認を行うことにより、利用者の生活の充実を図ることができた。 ・入院治療が必要となった利用者2名について、健康管理方法や職場環境の調整を行った。 	<p>個別の面接に基づき支援計画を作成し、成年後見制度の利用、ケア会議の定期的な開催など、地域全体で利用者の生活を支援するための調整を行っていることは評価できる。</p> <p>今後も、利用者の状況の変化に応じたきめ細かな対応を行うこと。</p>
③ 職員の確保及び研修	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長(常勤1)・支援員(常勤1)・管理人(常勤1)・調理員(パート1)を雇用し、欠員が生じた場合は法人内部の人事異動で補充した。 ・法人職員の全体研修に参加し、資質向上に努めた。 	<p>年度途中の退職があったが、適切な補充ができたことは評価できる。</p> <p>研修は、外部研修も含めた広い範囲の研修を行うこと。</p>
(2) 利用状況		
① 利用者の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・10名が利用。 <内訳>◇男性5名・女性5名 ◇A1:2名・B1:4名・B2:4名 ◇20歳代1名・30代6名 ◇40代1名・50代以上2名 ・19年度中の入退所はなかった。 ・食事は月～金の夕食を提供 	<p>利用者の状況の変化があれば地域移行等も検討し、必要な人が公平に利用できるよう配慮すること。</p>
② 行事等の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・10月 一泊旅行 ・12月 大掃除・クリスマス会 ・2月 節分 	<p>定例の行事であるが、利用者の意見を取り入れての企画は評価できる。</p>

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																		
(3) 収支状況																				
① 収支状況	<table border="1"> <tr> <td>収入</td> <td>17,505,383 円</td> </tr> <tr> <td> 利用料</td> <td>3,311,963 円</td> </tr> <tr> <td> 委託料</td> <td>13,679,000 円</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>514,420 円</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>18,691,374 円</td> </tr> <tr> <td> 人件費</td> <td>13,447,907 円</td> </tr> <tr> <td> 事務費</td> <td>737,879 円</td> </tr> <tr> <td> 事業費</td> <td>4,505,588 円</td> </tr> <tr> <td>差額</td> <td>△1,185,991 円</td> </tr> </table> <p>・収入は委託収入が約80%。支出は人件費が経常活動支出の70%以上を占める。 ・法人内部の人事異動による人件費の増と、管理物品以外の備品買換えのため、18年度に比べ支出額が上回った。</p>	収入	17,505,383 円	利用料	3,311,963 円	委託料	13,679,000 円	その他	514,420 円	支出	18,691,374 円	人件費	13,447,907 円	事務費	737,879 円	事業費	4,505,588 円	差額	△1,185,991 円	法人内部の事情により、支出が増えているため、指定期間全体を考慮した運営を行うこと。
収入	17,505,383 円																			
利用料	3,311,963 円																			
委託料	13,679,000 円																			
その他	514,420 円																			
支出	18,691,374 円																			
人件費	13,447,907 円																			
事務費	737,879 円																			
事業費	4,505,588 円																			
差額	△1,185,991 円																			
(4) その他																				
① 利用者からの意見・要望等への対応	<p>・行事や献立、役割分担を決める際などは全員で会議を開催し、利用者の意見を取り入れた。</p> <p>・食事の場面など、日常生活の中で利用者が集まる機会に、利用者からの意見も聴くように心がけている。</p> <p>・苦情解決などのシステムを通じた苦情・要望などは特になかった。</p>	少人数の特定の利用者が対象であるが、今後も利用者の意見をきく取り組みを行うこと。																		
② 個人情報の保護	<p>・ケース記録等は鍵のかかる保管庫に収納している。</p> <p>・パソコンのフロッピーディスク等は施設から持ち出さないこととしている。</p>	関係機関との連携の際にも個人情報の照会の機会があるため、本人同意等の手続きを今後も適切に行うこと。																		

3 管理運営(事業執行)に対する全体的な評価

18年度の指定管理制度導入により運営法人が変更になった施設であるが、利用者との関係も構築でき、法人内の人事異動があっても、法人の考え方を生かした利用者支援が継続できている。民間法人への移行により、人件費を中心に、利用者支援に重点を置いた用途の工夫ができたことは評価できる。

4 20年度の管理運営(事業執行)に対する指導事項等

・法人の変更もあり利用者とのきめ細かなコミュニケーションができていたので、後半も同様の状況を保つこと。

・「福祉ホーム」は、障害者自立支援法に基づく共同生活援助(グループホーム)・共同生活介護(ケアホーム)と、単身生活との中間に位置づけられる、市内唯一の生活支援施設である。近年、利用者の入れ替わりがなく、利用の定着という面では評価できるが、施設の公平性の視点から、個別支援計画作成の際にはさらなる地域移行の可能性等についても考えていくこと。

・施設の老朽化に伴い、比較的大規模な修繕が必要な箇所が出てきているので、計画的に対処すること。